

『韓国語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

今年の受験者総数は235名、平均点は146.91点であった。受験者数は微増、平均はさほど変わらなかった。出題内容や形態も大きく変化はなく、今年度も毎年の指摘を繰り返さなければならないことを非常に残念に思う。

大学入学共通テスト外国語の問題作成において重要視されなければならないのは、コミュニケーション能力と思考力をはかる問題であるかどうかである。果たして第1問がその二つの力をはかる問題になっているのか、今一度考えていただきたい。詳しくは各設問で述べていく。

第2問以降は良質な問題になりつつあると思われるが、一つの会話文や長文の量が少し多いように思われる。全体的に一つの設問の文章の分量を減らし、設問数を増やすなどの工夫をしてみてもいいかだろうか。

例年どおり本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験(TOPIK)のⅡ(3～4級)及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級レベルを想定していることをここに明記する。

なお、評価に当たっては、21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本項目では、前文の「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、適切とは言えない問題を中心に引き上げることにする。

第1問

A 音の変化の規則の知識を問う問題

ハングルは表音文字だが、文字通りに発音せず、そのつづりとは違う発音をすることが多い。そのため、旧来より音の変化の規則を学習項目に入れてきた。口頭でコミュニケーションする機会が少なかったときは、まず音の変化の規則を習得し、それを実際のコミュニケーションに生かす方法がとられていた。しかしながら、現在は、学習環境が大きく変わり、耳から得る情報は膨大になり、また実際に口頭でコミュニケーションする機会も大幅に増えた。したがって従来のような音の変化の規則を知識として学習せずとも、コミュニケーションを行うことは以前に比べ容易になっていることを、日々目の前の高校生を見て実感している。

問1の㉓「나뭇잎」の発音を[나문니피]と発音するには、ㄴ添加(ㄴ挿入)とその条件、複合語、終声の代表音、鼻音化等と何段階もの音変化等の規則を踏まないと発音できない、と思われ、その規則を覚えることが、他の単語を発音するときに応用でき効率が良いと考えられてきた。しかし、現在は、その音変化の規則を覚えるより、「나뭇잎」の発音は[나문니피]と発音すると丸覚えさせる方が効率がよいのではないだろうか。K-POPの歌詞に「나뭇잎」が出てくれば、「木の葉が」は[나문니피]と生徒はすぐに発音できるであろう。それでは、他の単語を発音するときに応用できない、と思われるかもしれないが、その規則を覚えることが生徒にとって効率の良い学習方法になっているか疑問であり、生徒にとっては単語ごとに

発音を覚えることの方が、効率が良いこともあるだろう。

また、スピーキングやリスニングテストにおいて音の変化を正確に問う問題はあってもよいと思うが、英語以外の外国語の共通テストでは、スピーキングやリスニングテストは行えないのが現状である。筆記形式の問題で発音の問題を出題することで無理が生じているように思われる。発音の問題のようで、実はただの音変化の規則の知識を問う問題になっていないか今一度考えていただきたい。問1の㉓「나뭇잎이」をゆっくりと[나뭇 이 피]と発音し、問2を濃音化も有声音化もせず発音してその意が通じないだろうか。また、スピーキングのテストにおいてそのように発音して減点対象となるであろうか。本来スピーキングやリスニングで問わなければならない問題を、リーディングやライティング形式の問題で出題すること自体が問題であると考えられる。残念ながらこの形態では、音の変化の規則の知識しか問うことができず、この形式では、実際に正しい発音をしているか、はかることはできないのである。

音の変化の規則を学ぶことは重要な学習項目ではあるが、その知識のみを問うことが、共通テストが求める思考力、判断力をはかる問題と言えるだろうか。繰り返しになるが、コミュニケーションをする上で、不正確であっても妨げにならないほどの発音であれば、許容してもよいのではないだろうか。そして、その知識のみを問うことは真のコミュニケーション能力をはかることにはならないのではないだろうか。今一度、この形式の問題を検討いただき、今後、出題されないことを切に願う。

B 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

問4の「컴퓨터 프로그램을 돌리다」は、学習範囲外の語彙で良問とは言えない。問4以外は学習範囲内の語彙や文法であるが、その知識のみを問う出題には疑問が残る。第2問以降でも十分問える問題であり、対話文や長文の中で問うことで思考力、判断力を問う問題になりうるのではないだろうか。

C 日本語文を韓国語文に直す問題

学習範囲の語彙、文法、表現、語順の知識を使って適切な韓国語文を作成する。正答となる韓国語文は日本語文の直訳では意味が通じないことを学習者に理解してもらうことを求めている問題である。問3は語彙は学習範囲内であるが、慣用表現が学習範囲外の表現となっており、高等学校韓国語学習者にとっては良問とは言えない。

第2問 比較的長い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題。形態は会話文であるが、問題を解くためには精読せねばならず、読解の問題になってしまっているように思われる。もう少し会話文を短くし、設問数を多くするなどの工夫も欲しい。

A 3人の友人が映画を見た感想を述べている会話文。問2の正答㉓の「아니랄까 봐」という表現は文字通りの意味ではなく、反語的な表現で、学習範囲を逸脱しており、良問とは言えない。この状況をドラマなどで聞いていれば、イントネーションや表情などから、その意を読みとることはそんなに難しいことではないかもしれないが、読解でその反語的な意味まで読みとるのはかなり難しいと思われる。会話文とはいえ、書かれている文なので、イントネーションなど、書かれている以外の要素から文意をとらなければならない状況は排除して出題するようにしていただきたい。問2以外は学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B 電話でのやりとりとスマートフォンでのメッセージのやりとりを読んで解く問題。語彙、表現、場面設定、テーマともに適当であると言える。

第3問 グラフや図表、イラスト等を使用した出題で、実際にありそうな場面や状況を想定し作

成されれば良問となりうる。

A 天気予報の図表を見て何を表しているか読み解く問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と言える。

B 案内文から必要な情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と言える。

C 自治体が地域住民を対象に開催するペット飼育に関するマナー講座の案内文が課題文となっている。文章の長さ、使用語彙の難易度等、ほぼ適切な内容と言える。最近、韓国ではペットを飼育する世帯が増えてきており、マナーの悪いペット保護者の行動が社会問題化している。韓国の社会問題に関心を持つという意味で、本課題文のテーマ設定は妥当だと言えるが、ペットや動物に関心の薄い高校生にとっては具体的なイメージが持ちづらい文章であるかもしれない。各設問（問1、問2、問3）とも課題文の内容を把握できれば、正答を導くことが可能だ。

第4問 長文読解問題である。メディアとして長い歴史を持つラジオは、テレビやインターネット、さらにスマートフォンといった新たなメディアの登場で危機を迎えるが、なぜか最近になって聴取者の数が伸びていることに注目したエッセイ。課題文としては、かなり読み応えのある分量であるが、使用されている語彙や表現はほぼ想定学習範囲内で、課題文章全体の難易度は適切であると言える。また、問6の設問に簡易なグラフを資料として挿入するなど、多様な問いを提示するという点においても作問側の工夫が見られる。

今回も、長文課題文に対して出された問題は10問である。これは、以前「長文課題に対しての問いの数が少なすぎる」という本委員会の提言に対し、作問委員が真摯に答えてくれている結果であると見ている。長文課題に対して問いの数が増えていることで、長文読解問題の配点比重が高まり、全体的にバランスの取れた問題配分となっていると言えよう。

さて、その上で長文読解問題に対しての新たな提案であるが、第4問を二つの長文（3段落程度）に分けて出題するのはどうであろうか。問いの数は、各長文問題に対し5問程度とする（計10問）。この措置で、文章問題の多様性を確保することになり、また短い文章を多く出題するTOPIKの出題形式にも近づくことになるのではないか。

3 ま と め（総括的な評価）

今回の共通テスト韓国語の問題内容を総括すると、およそ本委員が想定する学習範囲内（TOPIK 3～4級程度）の問題であり、適当であったと言える。ただ、幾つか学習範囲を超えた語彙・表現を伴う出題があり、こちらは本報告の中で適宜指摘させていただいた。さらに、以下の2点については、次回の問題作成時に反映をさせていただきたいと考えている。

① 第1問の「音の変化の規則の知識」を問う問題の削除若しくは対話形式問題への挿入

② 第4問の分割化（複数の長文読解問題）、若しくは第5問（長文読解問題）の設置

理由は、本報告書の各問題で述べたとおりである。是非とも御検討いただき、高校学習者にとって有益となる優れた問題を作成していただくことを切に望む。